

氷川中の風

文責:校長

中島 綱紀

NO. 3

飛行機の窓から見た青と青

修学旅行で沖縄に行った2年生たちが飛行機の窓からみた青色が二つありました。一つは南の海の青色です。南下するにつれて雲の間からのぞく海の青さに「きれいだ」「初めて見た青色だ」と感動の声をあげていました。八代海とは違いどこまでも透明な青色でした。もう一つの青色は、阿蘇くまもと空港を飛び立ってすぐに眼下に広がっていた、熊本地震で被災された家屋の上に敷かれた何千・何万というブルーシートの青色です。生徒たちはその数とその広さに驚き声も出せずにただじっとみつめるだけでした。復興を待っておられる方々、復旧に汗を流されている方々の思いを胸に、自分たちに何ができるのだろうと皆が考えさせられた青色でした。



今年も、ようこそ大先輩



6月1日(水)お昼前に2台のバスで氷川中学校第6期卒業生46名が来校されました。久しぶりの母校に皆さん大はしゃぎ。少年と乙女の頃に戻られて、目をキラキラ輝かせて昔話に花が咲きました。運動場をまわりながら「あそこに校舎が・・・、あそこに池が・・・」。体育館では、壁に飾られた『校歌』を見上げて大合唱。「都会に出てもこの校歌を時々口ずさんでいたのよ。」としんみりする昔乙女。その後、ICTを使った1年生の授業を参観していただきましたが、電子黒板を扱う先生をみて、「時代の流れを今感じていますよ。」と口をあんぐりさせる昔少年。「校長先生、よか子どもたちばかりでした。後をしっかりと託しますよ。」という言葉に、23代目の校長の顔はきっと引き締まりました。

熊本地震で大きな被害を受けた益城中学校の支援のために、6月1日から5か月間、本校の矢鋒清一郎先生が派遣されています。写真は5月31日の激励会での背中です。益城中は、避難所から登校している生徒がいます。車中泊している生徒や先生もいます。落ち着けるはずの家が全半壊してしまった生徒や先生がいます。やっと6時間の授業ができるようになりました。矢鋒先生はそんな益城中でがんばっています。他の先生たちが精いっぱい生徒たちと向かい合えるよう自分から仕事をみつければ縁の下役目を黙々とやっています。先生の背中にみえるのは「氷川中プライド」です。

【先生の背中】

